横浜市立 阿久和小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 4 ~ 6 年度 ）

重点取組分野	令和 4 年度 具体的取組	令和 4 年度 自己評価結果	総括
授業改善	①学習スタンダードを充実させて一貫した指導を行い、安心して安全に学習を進められるようにする。 ②TTや少人数指導を取り入れて個別最適な学びを支援して、充実した協同的な学びを推進する。 ③算数科を重点的に研究して、主体的で対話的な深い学びや次につながる確かな学びを推進する。	①学習スタンダードや教科指導方法等の共通理解を図り、授業改善を組織的に行った。また、ICTを効果的に用いた授業改善を行い、児童の情報収集力や発信力を高めた。 ②多くの教職員が、TTや少人数などにより児童と関わり個に応じた学習支援を行った。 ③算数科の重点研究をもとに、発問や板書、授業展開等を学び、他の教科でも生かすことで、児童が安心して学習を進めることができる授業改善に努めた。	B
豊かな心	①授業研究や年１回以上の授業公開を通して特別の教科「道徳」の授業力を高めて、道徳性を高める。 ②年２回以上のYPアセスメントを通して実態や変容に合った指導・支援をして、安心感や所属感を高める。 ③たてわり活動を充実させて、相手の立場や気持ちを大切にする意識や自己有用感、人権意識を高める。	①児童の生活と関連付けながら毎週の道徳科を大切に行い、人とのかかわりに関する道徳性を育成した。 ②YP分析により、児童の思いに気付き良いかかわりができるような支援に努めた。 ③児童会活動では、あいさつ運動を行い、明るい学校や他者を大切にする気持ちをもたせることができた。年間を通したたてわり活動を充実させたことで、人とのかかわりを大切にする優しい心が育んだ。特に、高学年の自己有用感の高まりにつながった。人権週間の思いやりデーやの活動で自己肯定感をもつことの大切さを意識付けた。さらに、花いっぱい運動により、児童の情操を高めることができた。	B
健やかな体	①運動する楽しさや健康の大切さを実感する取組を充実させて、運動や健康増進への意識を高める。 ②学校保健委員会や保健集会、食育などを通して、保健への関心を高めよりよい生活習慣の育成を図る。 ③年間を通じてなわとび運動に取り組み、向上心や粘り強く取り組む態度、運動の技能を養う。	①小規模校の長所を生かした異学年合同の体育を行うことで複数教師による充実した指導や支援を行うことができ、児童に運動の楽しさを感得させることができた。 ②年間を通した姿勢に関する取組や校内放送を生かした食や健康に関する働きかけにより、健康や生活習慣の改善に迫ることができた。 ③健康の維持・増進や児童の達成感を育むために年間を通して行ったなわとびの取組は効果的であったが、継続性のある目標設定が今後の課題である。	B
自分づくり教育	①学校行事、児童会活動などを充実させ、夢や目標をもち実現に向けて自ら考え行動する態度を育てる。 ②自分づくりパスポートを活用し自分で目標を立て学習や活動を振り返ることを通して、自分自身の変容や成長を自己評価して、今後のよりよい自分づくりをする資質能力を養う。	①各学校行事において発達段階に応じたあめて設定を行うとともに、児童自身の成長に関する振り返りの時間を大切にした。 ②今年度は、学校教育目標の具体テーマである「夢の実現に向かって行動する子」を目指して、意図的計画的な支援をした。毎時間の授業や各行事ごとに、めあてと振り返りを大切にして、自分と向き合う時間と他者や周囲を意識する時間を作り出した。また、定期的に、自分づくりパスポートをもとに自分と向き合い、自分の成長や希望をもてるように働きかけた。	B
児童指導	①「あくわスタンダード」をもとに、めざす姿や約束事を子どもたちと教職員が朝会や集会などで共通理解したり各学級での指導で意識化させたりして、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする。 ②学校説明会や学校便り、懇談会などをもとに、保護者と共通理解をして学校と家庭の連携を強める。	①児童の主体的な行動につながる実態に合った「あくわスタンダード」の見直し・修正をした。学校生活だけでなく金銭やSNSに関する事柄も、内容に応じて全体・学級・個別指導した。 ②学校説明会や懇談会で直接的に、学校だより・児童支援専任だより等で間接的に保護者に対して伝えた。 ③気にかかる児童の言動や状態は、管理職及び教職員同士で情報共有し、迅速に保護者と相談をしたり適切な組織的な指導をしたりして、早期発見・早期解決を図った。	A
いじめへの対応	①月１回いじめ防止委員会を開催し、全教職員で現状や事実を確認し、明確な方針のもとに具体的な対応や今後の方向性などを共有し組織的な対応をして、児童が安心して学校生活を送れるようにする。 ②定期的にいじめアンケートを行い、実態や困り感を把握して、いじめの早期発見・早期解決に努める。	①毎日の教職員同士のコミュニケーションや定期的な話し合いの場をもとに教職員同士が情報共有し、複数の目で見守り小さな変化や問題も把握し適切な指導を迅速にしたことで、いじめの早期発見・早期解決ができたとともに、いじめ発生・認知件数も昨年度より減少させられた。 ②定期的なアンケートだけでなく、学級始めや終わりに行った個別面談、YPアセスメント等を通して、児童の気持ちや人間関係を客観的につかみ、適切な支援を行った。	A
特別支援教育	①一人ひとりの特性を全教職員が共通理解し対応方法やめざす姿を共有して支援をしたり関係機関との連携を図ったりすることで、よりよい支援を見出して合理的配慮を行うとともに個に応じた教育を充実させる。 ②交流教育やインクルーシブ教育を推進して、人権意識を高める。	①教職員一人ひとりが特別支援教育の重要性を理解し、学校全体で基礎的な環境を整え、個人面談などで合理的な配慮の内容や方法を学校と保護者が合意形成し、個に応じた組織的な指導を行った。定期的な研修や特別支援教育Coからの情報発信により、最新情報の取得や支援の振り返りをした。個別の指導計画や教育支援計画に修正・改善を定期的に行うことが今後の課題である。 ②近隣学校や区役所、児童相談所や警察との定期的な話し合いやケース会議を行うことができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①校内外の研修と教育活動の実践を好循環させて、人材育成や組織育成を図り、教育力を高める。 ②級外教員も含めた学年ブロック体制などをつくり、主体的な学校運営や充実した教育活動を推進する。 ③行事ごとに学校評価を行い振り返りをして、行事の精選を図り、教職員や児童の負担の軽減につなげる。	①校内研修では、年間の校内研修計画を見直し本校の教職員の資質・能力を高める必要感・切実感のある効果的な研修を行った。また、充実した授業に向けた研修も行った。校外研修では、Leafを活用して自分の資質・能力を振り返り計画的な研修をした。 ②学習指導や評価、校外学習や各行事、学年会計の分担などについて、級外を含めて学年ブロックで協力して行うことができた。 ③教務主任を中心に、配付物の見直し・授業時数の見直し・会議の内容や方法の修正等を行い、働き方改革を進めた。	B
地域連携	①保護者への学校への関心を高めるために、教育活動に参加できる機会をつくる。また、懇談会などの工夫をして、教職員との信頼関係を深める。 ②地域とともに歩む学校づくりを推進して、地域の教育力や材を学校教育活動に活用する。	①学校と保護者が話し合い理解し合うために、懇談会の開催方法や内容を工夫して参加率を高めた。懇談会の雰囲気も和気あいあいと保護者が話せる場の設定をした。 ②学校と地域の方々が信頼・連携し合うために、まちの教育懇話会を開催し、お互いの思いを共有した。 ③令和6年度の学校統合に向けて、いずみ野小学校と合同学校運営協議会を設立した。また、教職員同士・PTA役員同士の話し合いをもち円滑な学校統合に向けた話し合いを重ねた。	B
教育環境整備	①校舎内外の環境整備に努め、児童が安全に学習活動が進められるようにする。 ②授業への効果的な活用について研修を行い、情報・視聴覚機器のさらなる有効活用を図る。 ③校内の掲示板に成長や学習の様子を掲示して、学校生活全般への意欲付けや振り返りを支援する。	①技術員を中心に、校庭の一部芝生化、暑さ対策のためのミスト作成、ウサギ小屋の改善、観察池の整備、タイル修繕、教室のカーテン敷設、校内LAN設置、畑づくり、稲づくり、中庭の花壇作成等を行った。また、統合に向けたて教室や教員の片付けを進め、保管替えの計画・準備をした。 ②授業でのICT活用だけでなく、各委員会での動画作成やロイロでの情報発信、プロジェクターを用いての発表などができた。 ③職員室前に掲示板を新たに設置し、多くの方々に伝わるように統合に関する情報発信を行い理解を深めた。	A
ブロック内評価後の気付き	いずみ野中学校ブロックにおいて、「授業のユニバーサル化」や「ICT機器の活用」をテーマにした授業研究会を行った。前者については、本校が大切にしている特別支援教育についての基礎的な環境整備や合意形成に基づいた合理的な支援・配慮等への評価をいただいた。後者についても、本校の特質である少人数を生かしたグループ学習や双方向の情報共有の進め方への評価をいただいた。本校では、小規模校の良さを生かした教職員の複数体制での特別支援教育や個に応じた支援を充実させることができていると再確認した。今後は、令和6年度の学校統合に向けて、児童一人ひとりが、1学級の在籍人数が増える中で、自立した学びや生活を送るために、学習や生活の習慣を見直したり改善したりすることが課題であることを確認した。		
学校関係者評価	6月には、阿久和小学校単独で、毎年行っている「まちの教育懇話会」を開催し、地域の方に阿久和小学校の現在の状況をご紹介しご意見をいただくとともに、10月からの学校運営協議会を立ち上げるための準備をする話し合いをした。 10月には、令和6年度に学校統合を予定しているいずみ野小学校と「合同学校運営協議会」を設立した。1月及び2月には、その学校運営協議会の運営委員の方々に本校の大切にしている「あくわ魂」や日常の授業を参観いただいた。その結果、学校の実態や良さを知っていただき、現在の学校の課題をともに解決していただく方向性を見出すことができた。また、いずみ野小学校との差異を見出し、本校が大切にしたい取組や来年度の教育活動、そして統合後にも大切にしたい取組や改善が必要な課題なども見出すことができた。さらに、これからの学校統合に向けた準備や計画、方向性や取組内容などを共有化していただき、地域とともに歩む特色ある教育や学校づくりについて意見交換をすることができた。		
中期取組目標振り返り	「一人一人が大事にされていると実感できる学校づくり」をテーマに掲げながら、日々の授業改善、豊かな心の育成、夢の実現、健やかな体の４つの柱を中心に学校運営を進めてきた。いずみ野小学校との共同学校運営協議会を新たに設立し、多くの委員の皆様に阿久和小の子どもや職員の良さを感じていただくことができた。児童の学習面や自己有用感の向上については今後も課題であり、引き続き重点項目として取り組んでいく。次年度はすべての活動が「閉校」「統合」に関わるため、児童、保護者、地域、職員のそれぞれの想いをしっかりと受け止めて教育活動に反映させていく。全職員で意図的、組織的、計画的に準備を進め、阿久和小の４２年間を心から感謝して令和６年度の統合を迎えたい。		

重点取組分野	令和 5 年度 具体的取組	令和 5 年度 自己評価結果	総括
授業改善	①自分の考えや思いを堂々と表現できる子どもを育成するために、TTや少人数指導を取り入れて個別最適な学びや特別支援教育・協同的な学びを推進する。②自ら問いを見出し、仲間とともに高め合う日々の学習を実現することで、学力の向上を図る。③学校統合を視点にカリキュラムマネジメントを図る。	①児童のニーズに合わせ、TT、少人数指導、特別支援教育等を組織的に行った。また、自分の考えを表現することができる環境づくり・雰囲気づくりに努め、表現する力を伸ばした。②仲間と共に高め合うような授業を意識的に取り入れたことで、個々の学力の伸びにつながっている。③次年度に向けたカリキュラムマネジメントを行い、統合に向けた準備を進めることができた。	B
豊かな心	①授業研究や年１回以上の授業公開を通して特別の教科「道徳」の授業力を高めることで児童の道徳性を高めるとともに、自他を大切にする教育活動を通して人権教育を推進し児童の人権意識を高めることで、豊かな心の育成を図る。②年２回以上のYPアセスメントを通して実態や変容に合った指導・支援をして、児童の安心感や所属感を高める。③栽培活動やたてわり活動を充実させて、相手の立場や気持ちを大切にする意識や自己有用感、人権意識を高める。	①健康保健委員会や運営委員会と連携して、どんなコンディションの自分も受け入れ、相手も自分も大切にできる児童の育成に努めた。②複数の職員でYP分析をし、よりよい支援のあり方について考え実践したことで、児童の人との関わりを大切にする気持ちが高まった。③掃除のたてわり掃除や、様々なたてわり活動を通して、相手を大切に思う意識や、自分の役割を認識し責任をもって取り組む姿が見られ自己有用感の高まりにつながった。	A
健やかな体	①学校保健委員会や保健集会、食育などを通して、保健への関心を高め、家庭の協力も得て、よりよい生活習慣の育成や改善を図る。②年間を通じて縄跳び運動に取り組み、運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、向上心や粘り強く取り組む態度、運動の技能等を養う。縄跳び運動を通して、児童の自己肯定感を高める。	①保健だよりを毎月発行したり、給食試食会を再開したりすることで、児童が健康についてどんな学習をしているのかを伝え、家庭での生活習慣の改善を呼びかけた。②体育の慣れの運動で積極的に縄跳び運動を取り入れたり、縄跳び集会を定期的に行ったりした。また、閉校事業でダブルダッチのプロパフォーマーを招聘し、本物の技に触れる機会を設けた。これまでに培った縄跳びの力をプロの方に褒めていただき、自己肯定感のさらなる向上につながった。	B
自分づくり教育	①学校行事、児童会活動などを充実させ、夢や目標の実現に向けて自ら考え、行動する態度を育てる。 ②魅力的な「人・もの・こと」と出会い、より良く生きるための課題を見出し、主体的に課題とかかわり協同的に課題を解決する体験的な活動を通して、自己調整能力等を育成する。③自分づくりパスポートを活用し自分で目標を立て学習や活動を振り返ることを通して自分自身の変容や成長を自己評価し、今後のよりよい自分づくりをする資質能力を養う。	①開校に向けた行事を児童主体で運営し、充実した学校行事となった。自ら児童が取り組みたい役割を選べる機会を設けたことで前向きに目標に取り組めるようにした。 ②わくわくあくわの日や鑑賞教室やあくわ博で魅力的な「人・もの・こと」と出会い、児童が地域を大切にする気持ちや憧憬をもつ機会になった。 ③「自分づくりパスポート」を活用して自己を客観的に見つめる機会を設けた。自分のよさを発見したり、自分の学びや成長を実感できるよう働きかけた。	A
児童指導	①「あくわスタンダード」をもとに、阿久和小学校がめざす子どもの姿や学校生活上の約束事等を子どもたちと教職員が朝会や集会などで共通理解したり各学級での指導で意識化させたりして、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする。②学校説明会や学校便り、懇談会などをもとに、保護者と共通理解をして学校と家庭の連携を強めることで、「安心して子どもを通わせることができる学校」をめざす。	①安全安心で居心地の良い学校生活に向けて、学校スタンダードをもとにした金銭共通の指導、支援を行った。問題が発生したときには朝会や授業で子どもたちに指導をしたり、保護者への協力を呼び掛けるなど迅速に対応した。 ②スタンダードの意義や児童の学校生活を学校説明会や懇談会で直接的に、学校だより等で間接的に保護者に対して伝えた。	A
いじめへの対応	①日常的な情報共有や月１回いじめ防止委員会を通して、明確な方針のもとに具体的な対応や方向性等を共有し組織的な対応をして、児童が安心して学校生活を送れるようにする。②定期的にいじめアンケートや面談を行い、実態や困り感を把握して、いじめの早期発見・早期解決に努める。③豊かな心の育成を重視して未然防止に努めるとともに、いじめの原因から課題を見出し組織的に課題を解決して再発防止に努める。	①月一回以上いじめ防止委員会を開催し、積極的にいじめ認知した。認知した案件については組織的に対応し、経過観察を丁寧に行い、再発防止に努めた。また、いじめの解消や継続が全職員で共有できるように会議録のエ夫をした。 ②5月と12月に児童へのアンケートや面談を行い、いじめの早期発見、早期解決に努めた。 ③学年や専任、関係職員との間で情報共有を密にし、未然防止、再発防止のための適切な指導、支援を行った。	A
特別支援教育	①一人ひとりの特性を全教職員が共通理解し、支援の方法を共有したり関係機関との連携を図ったりして、計画的に合理的配慮を行う。②一般級と個別支援学級の交流学習や特別支援学校との居住地交流を通して、交流教育やインクルーシブ教育を推進して、人権意識を高める。③国際教室や特別支援教室を充実させて一人ひとりのニーズに合った合理的な支援を行う。	①ケース会議やコンサルテーション、毎月の児童指導委員会を通して、児童の特性を教職員が共有・理解することで支援にいかすことができた。②居住地交流や交流学習を通して、互いを理解したいという気持ちを育てた。③面談や日々の学習の様子からのニーズを把握し、支援体制の仕組みを整えた。ボランティアや母語支援を充実させ、個に応じた指導を行った。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①誰もが安心して働き、一人ひとりが自分らしく輝くことのできる職場づくりを目指す。②組織を工夫し、主体的な学校運営や充実した教育活動を推進する。③行事ごとに学校評価を行い自己点検をして、行事の精選を図り、教職員や児童の負担の軽減につなげる。④メンターチームを充実させ、すぐに役立つ指導・支援の方法を学び続ける教職員を育成する。	①④経験がある教職員が経験が少ない教職員の思いや願いを聞き、主体的に校内研修を行った。教職員が互いに協力し合い、一人ひとりが学び続けることができる職場づくりを推進した。②3部門に再編した部門会を新設し、職員会議サイクルを再構築した。月ごとに部門会で成果や課題を話し合い、全体で共有・検討することで、組織力が向上し、教育活動の充実につながった。③統合校のいずみ野小学校の時程を参考にした午前中５時間40分授業を実施したり、余剰授業時数を見直すことで、会議日・出張日を設定したりした。放課後の時間を拡充し、教材研究の時間を確保することで、教職員や児童の負担軽減につなげることができた。	B
地域連携	①教育活動に参加できる機会をつくったり懇談会の開催方法等を工夫をしたりすることで、保護者の関心を高めたり学校への信頼関係を深めたりする。②地域の教育力や材を学校教育活動に活用し、児童が閉校する阿久和小学校への感謝の気持ちをまちの方々と共有することができるような取組を行う。③児童や保護者、地域や教職員が安心して学校統合を迎えられるように、学校の取り組みをHPなどで発信し続ける。	①チャレンジフェスタのリレーに保護者も参加したり、あくわの日のカレー作りに保護者の協力を得たりするなど積極的に学校の教育活動に保護者を巻き込む形をとることで、閉校に向け学校への関心を高めることができた。②ポカプラとの連携が広がり、子ども食堂が地域に根付いた活動となった。学援隊の取組やあくわラリーでの協力から地域に阿久和小が大切にされていることが感じられた。松陽高校・隼人高校・いずみ野中学校の近隣校が閉校を心に残るものにするため、イベントを盛り上げてくれた。③HPの「校長室から」を頻繁に更新し、学校での様子を発信した。	A
教育環境整備	①校舎内外の環境整備に努め児童が安全に学習活動が進められるようにするとともに、校内の掲示板に成長や学習の様子を掲示し学習や生活への意欲付けや振り返りを支援する。②校内外の研修からICT危機の効果的な活用についての理解を深め実践し、情報・視聴覚機器のさらなる有効活用の方法等を共有し、教職員の資質・能力を高める。③閉校に向けて、市民の税金で購入した教育資産である備品・消耗品を大切にとらえ、意図的・計画的に適切な処理をする。	①学校統合に向けて、事務、技能職員を中心に校内の物品整理や保管替え計画の立案を進め、児童の安心・安全な学習を保障しつつ、校内の学習環境整備に努めた。②どこでもスタディの職員研修を行い、活用方法の共有を図った。また、毎月のメンター研修会でICT機器の活用研修を行い資質・能力を高めることができた。情報モラルについて、指導部と情報共有を図りながら、すばやい対応・児童への全体指導を行った。ICT支援員の授業支援・ICT機器の保守点検を積極的に依頼し、環境整備を図ることができた。	A
ブロック内評価後の気付き	・合同授業研究会において小学校3校による授業公開を行い、数学科、国語科、社会科、外国語科におけるICT機器を活用した実践事例の提案を行うことができた。研究協議会では、授業でICT機器を利用した意図やその効果、活用における問題点などについての意見交換が行われ、それぞれの学校での利用状況や問題点を出し合い、共通理解を深めることができた。 ・授業以外では、中学校と小学校で使用している機器が違うことにより、機器活用や授業時の利用方法に違いがあることや、ICT機器の活用により、不登校、別室登校の児童・生徒への効果的な対応が期待できることなどが確認された。		
学校関係者評価	両校の学校評価アンケートの結果から、次年度は「あいさつ」を重点テーマとして取り組んでいこうという確認をした。児童から保護者へ、地域へと挨拶が広がっていくような取り組みを続けていきたい。年8回の学校運営協議会を通じ、阿久和小児童のよさや活躍ぶりを多くの場で見ていただくことで、児童の実態をより理解していただくことができた。また、児童間の交流を何度も重ねることで、不安や心配もあるけれど統合校への期待をふくらませる児童が増えたたことは大きな成果であった。		
中期取組目標振り返り	豊かな心と自分づくり教育については、学校保健委員会や多くの閉校事業行事などを通して、自己有用感の高まりが学校評価アンケートの結果として表れたため、評価をAとした。また、地域連携については、総合学習を基盤にした地域とのかかわりがさらに深まり、より多くの方や企業、NPOとのコラボレーションが実現した。児童が自分たちの住むまちを意識し、これからも阿久和のまちを大切にしていきたいという思いを育てることができた。教職員と児童が全力で閉校事業に取り組み、最後まで「生み出す活動」を続けたことが、安定した学校経営につながったと感じている。		

重点取組分野	令和 6 年度 具体的取組	令和 6 年度 自己評価結果	総括
授業改善	c1		
豊かな心			
健やかな体	c3		
自分づくり教育	c4		
児童指導	c5		
いじめへの対応	c6		
特別支援教育	c7		
人材育成・組織運営(働き方)	c8		
地域連携			
教育環境整備	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			